

一高だより

陸上部 新潟総体で善戦

7月29日(日)から新潟市の東北電力ビックスワスタジウムで開催された全国総体(IH)に陸上部から澤島竜一朗(33)が男子800mに春日久寛(34)が男子走高跳に出場した。澤島は、今シーズンに5000mから800mに種目を変更して初めてのIH出場(1種目66名参加)となった。予選のレースは、序盤から5~6番手につきラストの直線でスパートをかけ1人抜いて4着でゴールした。自己記録にあと0.2秒迫る好走したが、0.4秒で届かず惜しくも24名の準決勝進出に至らなかった。一方、春日は2年連続のIHに出場となった。昨年は、予選で記録なしに終わり残念な結果となった。今年は記録を2m03cmに伸ばして大会に臨んだ。午前の予選は、決勝進出記録(2m01cm)を3回目で見事にクリアした。当日の午後の決勝には18名の選手が参加して行われ、予選の疲れと暑さにより記録は1m98cmで14位であった。2人の選手は、連日30℃を超える猛暑の中、コンディションに気をつけながら最高の舞台上で自分の競技をした。



2012北信越かがやき総体陸上競技選手権大会 H24.7.29~8.2 於 ビックスワスタジウム

本校の選手が、全国の強豪選手と互角の戦いできたことが大きな収穫であった。2人の活躍は、陸上部ならず一高の生徒にいかなるところでも自己表現をする勇気をもたらした。

化学部 全国高校総文祭 2年連続出場

昨年の福島大会に続き、8/10(金)~8/12(日)に行われた富山大会に出場しました。

新設された自然科学部門は、本年度が2回目となる。ポスター発表と研究発表(物理・化学・生物・地学)の5部門からなり、県代表として、昨年はポスター発表に出場し、本年は研究発表(化学)に出場しました。

3年生が引退し、引き継いだ2年生が発表にのぞみ、奨励賞(第3位相当)を獲得しました。日々の研究の成果を、全国規模の場で評価していただいたことは、誠にありがたく今後の活動の励みになります。



美術部 全国総文祭に出品

8月8日(水)から富山県富山市で開催された第36回全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門に美術部の鈴木里佳子(26)の油彩画作品が出品され、「部門開会式」「講評会」及び「交流会」など各イベントに参加した。

茨城県代表として選抜された10名の中に内定した昨年10月より約半年をかけて制作したこの作品は、〈ハンター・闇を狩れ〉と題する40号の油絵で、深閑とした闇夜の森に獲物を狩るフクロウの羽ばたきが大膽な構図とコントラストの効い



第36回全国高等学校総合文化祭出品作品
「ハンター・闇を狩れ」油彩・F40

た色調により描かれており、展示会場でも一際目を引いた力作であった。

「講評会」では、金沢美術工芸大学教授で鉛筆画家としても有名な木下晋氏の講演と講評に耳を傾け、「交流会」では他県の大勢の参加生徒と共に風鈴短冊の制作を通して交流を深めるなど、有意義で貴重な体験の機会を得ることができた。

生物同好会部 全国高校総文祭 自然科学、生物部門 最優秀賞受賞

生物同好会部は8/10(金)~12(日)に行われた全国高校総文祭富山大会に出場しました。水戸一高校内のシラカシ林には毎年9月頃になるとアキノギンリョウソウが100本前後生えてきます。2007年より、「アキノギンリョウソウはシラカシが光合成で得た栄養をベニタケ属菌類を介して得ているのではないか」という仮説を立て、実験観察を続けてきました。富山大会には全国から104の研究発表と28のポスター発表がありました。その中で生物部門最優秀賞をいただきました。継続は力であることを実感するとともに、今後の活動の励みにもなりました。これ



からもアキノギンリョウソウとシラカシ、ベニタケ属菌類の関係をより深く研究していく予定です。

吹奏学部

吹奏楽部は、8月8日に行われた茨城県吹奏楽コンクール高等学校Aの部に出場、日頃の練習の成果を発揮し、見事金賞を受賞した。また、吹奏楽部の卒業生で組織される水戸一高OB吹奏楽団も8月12日に行われた一般Aの部に出場、昭和49年卒からこの春の卒業生まで60名が参加し、こちらも見事金賞を受賞した。現役、OBとも残念ながら東関東大会への代表には届かなかったが、来年度はアベックで代表となれるよう、さらに練習に励んでいきたい。

放送部 全国大会出場

7月に東京渋谷で行われた放送関係の最高峰であるNHK杯全国大会に、放送部2年の園部耀子がアナウンス部門に出場した。また、作品部

門においても創作テレビドラマ部門・ラジオドキュメント部門・テレビドキュメント部門に出場した。また、8月には第35回全国高等学校総合文化祭の作品部門においてビデオメッセージ部門に出場した。

NHK杯全国大会においては、アナウンス部門においては日頃の発声訓練・滑舌訓練の成果もあり、善戦したものの惜しくも初戦で敗退した。作品部門のほうではラジオドキュメント部門が準決勝まで進出した。全国のトップレベルの精鋭が集う中で、貴重な経験を得ることができた。

大会には2年生部員数名も参加し、高い放送技術を見学した。次年度以降は、同大会において上位進出を果たすべく、目下充実した部活動を実施している。

化学グランプリで大賞受賞 (4位に相当)

化学グランプリは中高生が化学の知識や実験技能を競うものです。今

年は3202名の参加者から1次選考で83名が2次選考に選ばれ、慶應義塾大学日吉キャンパスにて実験試験に挑みました。1次選考はマークシート式の筆記試験、2次選考は実験試験で行われます。1次選考の有機化学分野などで高得点をとれたこと、2次選考で落ち着いて実験操作ができたことが大賞につながりました。これは去年の同大会で銅賞を取ってから、国際化学五輪の代表候補として勉強した成果だと思えます。そのときは日本代表にはなれませんでした。努力が実力変わったのを今大会で実感しました。また、2次選考では全国からの参加者と交流ができ、これも刺激的で有意義な経験でした。指導していただいた先生方に感謝するとともに、この大会で得たことを今後に生かしていけるよう、これからも努力したいと思います。

(35組 桐原正隆)

同窓会

生物同好会OB会の花園合宿

今年も7月末に水戸一高生物同好会OB会の花園合宿が開かれました。以前にも本欄でご報告しましたが平成13年の初開催以来6回目になり、関西から毎回参加の方もいらっしゃいます。この夏も連日の猛暑続きでしたが合宿の前後だけ気温が下がり、快適な森歩きを楽しみました。

花園山系は行かれた方も多いと思いますが茨城福島県境、茨城側から福島側へ突き出した部分にあたります。40数年前現役時代には今のような舗装道路もなく、岩がむき出しのガタガタ道、常磐線磯原駅前から一日数往復の小型バスが唯一の交通

手段でした。そのバスに機材や食糧と一緒に乗り込み神社の社務所や地区の公民館、山小屋を基地に活動しました。例えば山の中や谷川の中を歩きながら植物、蝶、水生昆虫を集め、夜には夜店でお馴染みのカーバイトランプで蛾を採集。放牧場では牛のふんをつついて甲虫を捜しました。週末の活動だけではなく夏には一週間前後の合宿をして調査を続けました。その集大成が昭和42年読売日本学生科学賞です。

当時顧問として熱心に指導にあたられ、OB合宿の開始のきっかけともなった「あにき」こと安藤勝敏先生も鬼籍に入られました。調査中に山の中で道に迷い、捜索に来られた先生にいただいた「あんパンチ」の味も懐かしい思い出になってしまいました。また、殆んどが舗装道路と

なった今、山道の所々を横切っていた水の流れに吸水の為群がっていた「ミヤマカラスアゲハ」も見られる事が少なくなりました。当時伐採の後に植林されたばかりで山のとっぺんまで見通せた和尚山の杉も年月を経て成長し、今は山頂へ続く道の入口のありかは看板が頼りです。それでも森の奥や草むらの上の空間、谷川の岩の裏に何かを発見するあの頃と同じときめきが私たちを集わせるのかもしれない。

今回の合宿で、谷川に生息する魚は放射能の為に食用に不適との看板を見ました。かつて我々が過ごし様々なことを学び、今も我々を引き寄せる花園の自然を次世代にどのような形で引き継ぐのか。新しい課題を発見した思いです。

(昭43卒 大内義房 市川市在住)